



第4回ユネスコスクール関東ブロック大会 ユネスコスクールの3つの柱

2023年

7月30日(日) 10:00 — 17:00

- 会場: 東海大学児童教育学部(湘南校舎 20号館) 神奈川県平塚市北金目 4-1-1
- 問合せ先: 東海大学国際学部 小貫 大輔 bj.daisuke@tsc.u-tokai.ac.jp
- 主催: 東海大学
- 共催: かながわユネスコスクールネットワーク(KAN) / 成蹊大学 / 創価大学 / 玉川大学 / CRI-チルドレンズ・リソース・インターナショナル
- 協力: 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)
- 後援: ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)
- 対象: ユネスコスクール加盟校・キャンディデイト校及び加盟に関心のある学校の教職員・生徒、その他一般の参加者

program

ユネスコスクールに求められる 3つの重点課題

東海大学児童教育学部学部長 山本康治



東海大学では、五十余年の伝統のある短期大学教育学部を2022年度に静岡キャンパスから湘南キャンパスに移し、4年制大学の児童教育学部を新設しました。乳幼児期の保育・教育から小学校教育まで幅広く学び、保育士資格、幼稚園、小学校の教員免許を取得できる学部として、これからの日本の教育を背負ってたつ若者たちを育てています。

環境教育、多文化教育、人権教育というユネスコスクールの「3つの柱」につながる課題は、大学全体の教育にとってとても重要なテーマですが、特に児童教育学部では、これから教員・保育者となる若者たちがそれらを子どもたちに伝えていく力を育てなければいけません。関東圏、日本、そして世界のユネスコスクールの交流の輪に加わることで、それらの実践について学び、具体的にどのような教育活動に落とし込んでいったらいいか、これから皆さんと一緒に研究していけることをとても楽しみにしています。

今回の「関東ブロック大会」では、長年の経験を積んでこられた発表者の皆様の実践から学ぶと同時に、参加者同士で意見を交換し合う機会も設けたいと思います。顔の見える交流、ワークショップ形式のグループワークを取り入れ、大会の後も続く親しい関係を築けるような工夫を凝らしたいと思っています。

皆様のお越しを心よりお待ちしております。

用語解説

ユネスコスクールってなに？

ユネスコスクール(ASPnet)とは、世界182カ国から1万2千校以上の学校が参加する国際的なネットワークです。幼保小中高の学校や教員養成系大学、その他のインフォーマル教育機関が参加し、ユネスコと連携して「人々の心の中に平和の砦を築く」ための革新的で創造的な教育への取り組みを生み出しています。取り組みの成果をユネスコスクール間で共有し、さらに地域の学校へ伝えていくことがミッションです。

ユネスコスクール定期レビューの導入と 新しい加盟申請の方法について

ACCU 教育協力部 藤本早恵子



ACCUは文部科学省の委託を受け、2008年よりユネスコスクール事務局を務めています。昨今、SDGsへの関心の高まりを受けてユネスコスクールへの期待はますます高まっており、「持続可能な社会の創り手の育成」を先導する役割が求められています。

そのような背景のもと、ユネスコスクールの活動の質の担保を目的として、2022年度から「ユネスコスクール定期レビュー」が導入され、新規で加盟申請する場合の方法にも変更が加えられました。今回の大会では、それらの変更点についてご説明するとともに、会場に相談コーナーも設け、個別の質問にもお答えしたいと思います。

ユネスコスクール事務局では、皆様の声に耳を傾け、今後もさまざまな支援を提供していきたいと考えています。ぜひ身近な存在として活用していただければと思います。

「3つの柱」の内容は？

2016年にSDGsがスタートしたことで、ユネスコスクールの果たす役割がますます重要視されます。2018年、ユネスコは各国のASPnetコーディネーターのための『ガイド(手引き)』を発行し、SDG-4「すべての人に質の高い教育を」(特にターゲット4.7)に沿った新しい指針を提案しました。その中で明示されたのが以下の「3つの柱」です。

1. 地球市民および平和と非暴力の文化
2. 持続可能な開発および持続可能なライフスタイル
3. 異文化学習および文化の多様性と文化遺産の尊重

神奈川・関東ブロックにおける 地方大会やユースセミナーの歩み

神奈川県では、「お互いの顔の見える関係」を築く目的から現在の「神奈川県ユネスコスクールネットワーク(略称:KAN)」の前身となるグループが2013年に結成され、県内のユネスコスクールが集まる地方大会を開催してきました。2015年からは東海大学、およびCRI・チルドレンズ・リソース・インターナショナルとの共催で多国籍・多文化の若者の集まる宿泊型イベント(UNESCOユースセミナー)を毎年開催するほか、2019年からはUnivNet(ユネスコスクール支援大学間ネットワーク)が開く「関東ブロック大会」の開催にも協力してきました。KANの運営するメーリングリスト(ML)に参加する現在のメンバーは以下の通りです。その他、個人として参加して下さるメンバーもいます。今年度の関東ブロック大会を機会に、KANのMLにも神奈川県の枠を超えた新しいメンバーがたくさん参加して下さるよう期待しています！

かながわユネスコスクールネットワーク(KAN)

会長 住田 昌治

事務局長 望月 浩明

MLへの参加申し込みは
以下までご連絡ください。
QYF01463@nifty.com

年度	神奈川県 ユネスコスクールセミナー	ユネスコスクール 神奈川大会	ユネスコスクール 関東ブロック大会	UNESCOユースセミナー
2013	8/1 横浜国大附属鎌倉中学校			
2014	1/10 神奈川県立有馬高等学校			
2015		8/1 横浜市立幸ヶ谷小学校		9/19-20 未来の学校について考えてみよう
2016		8/27 横浜シュタイナー学園		7/29-30 多様化・多文化化する日本の学校
2017		9/3 湘南学園中学高等学校		10/28-29 多様性とインクルージョン
2018		12/15 玉川大学		7/31-8/1 海洋プラスチック問題と私たちの生活
2019			10/5 玉川大学	7/20-21 コスモポリタンな日本とは？
2020				3/20(オンライン開催) 日本のいろいろな学校
2021			8/7 成蹊大学	8/7(オンライン開催) ユネスコスクールと外国学校の中高生の出会い
2022			8/3 創価大学	3/26-28 ジェンダーとセクシュアリティを理解する ワークとダンスと芸術表現の集い
2023			7/30 東海大学	1/20-21(予定) テーマは秋以降に実行委員会で決定



持続可能な開発および
持続可能なライフスタイル
〔環境教育〕

横浜シュタイナー学園

人と自然の営みが循環する 里山環境保全の学びから 地球規模の循環の学びへ

創設：2005年
ユネスコスクール認定：2011年
運営母体：NPO 法人横浜シュタイナー学園



学園の近隣に残る里山には、箱根、丹沢に次ぐ生物多様性に富む森が広がっています。その生物多様性は、人の生活の営みが自然の循環に組み込まれ、長い年月をかけて培われてきたのです。学園の子どもたちは、その森を保全するNGOの支援を受けながら、山田での米作りや環境保全活動を通じて、人と自然とのつながりを学んでいます。その体験的な学びは、世界地理、化学、農の学びを通じて、地球規模の巨大な循環系の中に人が生き、生かされていることの学びにつながっていきます。今回の発表では、その一端をご紹介します。

森のようちえん めーぷるキッズ

感じる (feeling) ことを通して 学ぶ幼児教育

創設：2009年
ユネスコスクール認定：2022年



世界の教育研究の中でも一番注目をあびているのが "Starting Strong (乳幼児教育)" であるように、環境教育も同じく乳幼児教育からはじめることが極めて重要です。運営母体であるNPO法人「もあなキッズ自然楽校」では、森のようちえんという自然環境を活かした保育を実践しており、ヒトや植物や生き物と向き合

い、五感を使って日々感じ、学んでいます。その日々感じる実践の積み重ねがやがて畏敬の念や平和を考える人間になっていくことの意味深さをお伝えします。さらに、もあなキッズでは、2020年より「100年先を見つめる保育園プロジェクト」をキャンペーン中！その詳細をお伝えさせていただきます。

横浜国立大学教育学部附属 鎌倉小学校

食育から取り組むESD (持続可能な開発のための教育)

創設：1875年
ユネスコスクール認定：2013年

本校では「給食」を通して、心身の健康づくりに必要な食習慣を身に付けるだけでなく、これからの地球環境を守っていくための知識が学べるように「食育」を推進しています。給食の食材は、昔ながらの伝統製法や、オーガニック、フェアトレード等の環境に負荷をかけないように作られた食材をなるべく選ぶようにし、食事のバランスだけでなく行事食や郷土料理、世界の料理等、食文化の伝承にも力を入れています。また、校内の畑で作物を育てる活動、給食の残渣や残菜をコンポストで堆肥を作り資源化する活動なども行っています。これらの活動を通じ、健康の大切さや、感謝の気持ち、持続可能な社会への取り組みなど、子供たちが食事を通して様々な繋がりについて主体的に捉えてほしいと考えています。子供たちが、未来を生きるために必要な力を養えるような「食育」を目指しています。



ポスター展示・コーナー展示など (7月12日現在)

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)
ユネスコスクール加盟のプロセスや、加盟後の定期レビューについての相談コーナー

一般財団法人ジャパンアートマイル
アートマイル国際協働学習の成果として文化背景が異なる相手と協創した壁画

東海大学/かながわユネスコスクールネットワーク /CRI-チルドレンズ・リソース・インターナショナル
第8回 UNESCO ユースセミナー「ジェンダーとセクシュアリティを理解するワークとダンスと芸術表現の集い」の動画と UNESCO の包括的性教育に関するポスター

大妻中野中学校・高等学校
フランコフォニー TO 私たち — 英語だけじゃない!! フランス文化への理解を深める学び ~国際フランコフォニーデー (国際デー) の周知と多文化理解教育~

横浜市立東高等学校
ユネスコスクールとしての歩み ~イースタイム (総合的な探究の時間) を柱として~

芝浦工業大学インカレ SDGs プロジェクト
個別最適な学びと協働的な学びを同時に実現する合同授業

成蹊学園サステナビリティ教育研究センター
成蹊学園サステナビリティ教育研究センターにおける ESD 活動

公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会
大阪・関西万博の概要の紹介と小・中学校に向けたプログラム

公益財団法人 日本野鳥の会
海鳥を守るために — 始めよう脱プラスチック生活

特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク
ジオパークとは? ~ユネスコスクールの活動への取り上げ方~

横浜市教育委員会
2022年度 横浜市 ESD 推進コンソーシアム実践報告書



異文化学習および文化の多様性と
文化遺産の尊重
〔国際理解教育・多文化教育〕

横浜市立幸ヶ谷小学校

ルワンダとの交流、 地域のインターナショナルスクールとの交流

創設：1929年
ユネスコスクール認定：2013年



本発表ではルワンダと交流を進めた「アートマイルプロジェクト」の様子と、地域のインターナショナルスクールとの交流を中心に、6年生の子どもたちがSDGsの10番目の目標「人や国の不平等をなくそう」をどのように受け止め、変容していったかを伝えます。プロジェクトでは、ルワンダと交流を重ねて1枚の壁画を完成させました。また、地域のインターナショナルスクール「ホライズン」との交流では、地域のゴミ拾い活動を進めました。こうした二つの取り組みを中心に、子どもたちは自分たちができることを考え、ユネスコスクールの意味についても考えを深めていきました。当日は、現在もユネスコスクールの中学で学んでいる二人の卒業生、交流に参加したルワンダの海外協力隊の方も発表に参加します。是非、生の声をお聞きください。

横浜市立南吉田小学校

多文化共生の学校づくり

児童の半数以上が海外22の国や地域につながる子どもたちです。多言語での落語発表会や世界の遊びを紹介する催しなどを通じて、子どもたちのつながる国の言語や文化を全校生徒に知ってもらっています。子どもたちがそれぞれの言語でアナウンスする運動会は、「東京2020 みんなのスポーツフェスティバル」で優秀賞を受賞したこともあります。子どもたちが保護者の国の言語を学ぶ母語教室も開かれています。

創設：1905年
ユネスコスクール認定：なし

* 南吉田小学校はユネスコスクールではないのですが、その先進的な多文化教育の取り組みをご紹介いただくことで、新しい時代のユネスコスクールのあり方を考えるきっかけを作っていただければとご招待しました。—— 実行委員会



地球市民および平和と非暴力の文化
〔平和・人権・ジェンダー平等教育〕

大妻中野中学校・高等学校

チームプロジェクト型の地球市民教育 ～学ぶ・つなぐ・行動する

創設：1941年
ユネスコスクール認定：2022年

大妻中野フロンティアプロジェクトチーム(FPT)は、中学2年生から高校2年生までの有志による学年横断型の課外授業です。本校がSGHアソシエイト校の認定を受けた2015年に創設され、今年度で9年目を迎えます。昨年度はメンバー24名が「共生社会チーム」「防災減災チーム」「ゴミ環境チーム」「子ども教育チーム」「女性ジェンダーチーム」にそれぞれ所属し、各チームの企画を、全校生徒、教職員、保護者、地域の人々にも参加を呼びかけ行動してきました。



FPTの活動は微力ではありますが、自分たちの企画が実現したときの喜びが「地球市民」として社会の課題に挑もうとする中高生の勇気を生み出すと考えています。

湘南学園中学校高等学校

中高生からの呼びかけ「生理を知ろう」 ～生理を通して多様性の理解へ

創設：1933年
ユネスコスクール認定：2013年

生理やLGBTQ+の学習会を開催、自由に使える生理用品を設置するなど、自分たちの身近なことからジェンダーについて考える生徒の自主活動「Over The Rainbow Project」。他にも環境、貧困問題を扱う自主活動があり、さまざまな視点から「誰もが生きやすい未来」を考えます。中高一貫校の強みを活かし、想いは先輩から後輩へと引き継がれています。



7月30日(日)

東海大学児童教育学部(湘南校舎 20号館)

10:00 開会のご挨拶
「ユネスコスクールに求められる3つの重点課題」
 東海大学児童教育学部学部長 山本 康治

10:10 **「ユネスコスクール定期レビュー(評価)の導入と新しい加盟申請の方法について」**
 ACCU教育協力部 藤本 早恵子

10:30 **持続可能な開発および持続可能なライフスタイル** 環境教育

横浜シュタイナー学園

人と自然の営みが循環する里山環境保全の学びから地球規模の循環の学びへ

森のようちえん めーぷるキッズ

感じる(feeling)ことを通して学ぶ幼児教育

横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校

食育から取り組む ESD(持続可能な開発のための教育)

11:30 グループワーク(情報・意見交換)

12:10 昼食・ポスターセッション

13:00 **異文化学習および文化の多様性と文化遺産の尊重** 国際理解教育・多文化教育

横浜市立幸ヶ谷小学校

ルワンダとの交流、地域の国際ナショナルスクールとの交流

横浜市立南吉田小学校

多文化共生の学校づくり

13:40 グループワーク(情報・意見交換)

14:20 休憩

14:30 **地球市民および平和と非暴力の文化** 平和・人権・ジェンダー平等教育

大妻中野中学校・高等学校

チームプロジェクト型の地球市民教育
 ~学ぶ・つなぐ・行動する

湘南学園中学校高等学校

中高生からの呼びかけ「生理を知ろう」
 ~生理を通して多様性の理解へ

15:10 グループワーク(情報・意見交換)

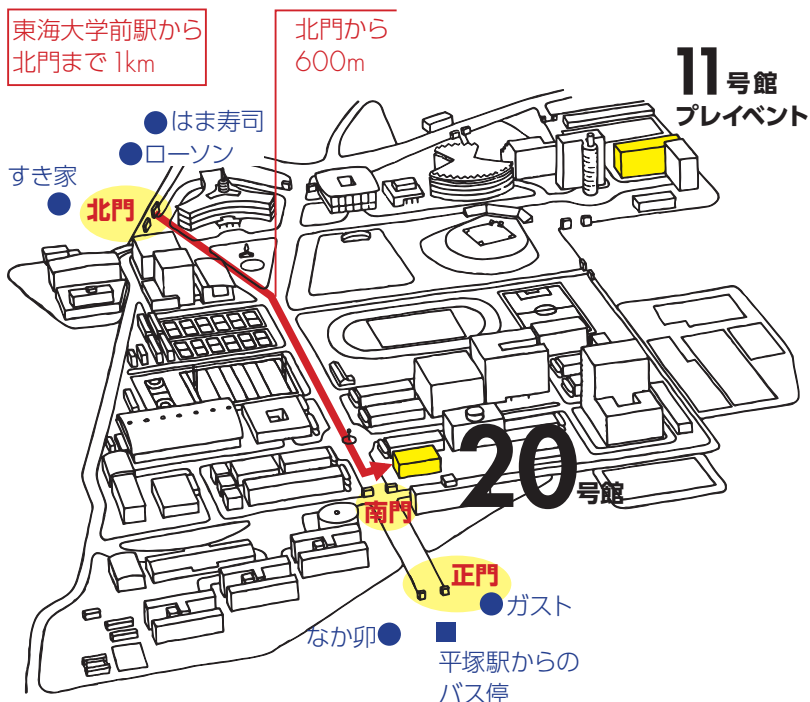
15:50 ディスカッション

16:50 閉会のご挨拶

小田急線 徒歩約20分またはバス
「東海大学前」駅 バス:「秦野駅行き」「下大槻団地行き」で「東海大学北門」下車 → 徒歩約5分
 [8:40/9:15/9:35/9:55 発車]

JR東海道線 バス:「東海大学行き」または「秦野駅行き」で約30分
「平塚」駅 「東海大学正門前」下車 → 徒歩約5分
 [9:00/9:22 発車]

車は南門より入構



プレイベントのご紹介(前日開催)

7月29日(土) 東海大学 湘南キャンパス
 14:00 - 18:00 11号館 3階 307教室

《ムーブメントとしてのシュタイナー》

— 国際理解、地球市民、環境をめぐるシュタイナー教育と人智学の取り組み —

主催: 学法人那須内海学園 那須みふじ幼稚園

共催: NPO法人横浜シュタイナー学園
 東京賢治シュタイナー学校
 創造の森保育園
 ぽっこわば耕文舎
 東海大学国際学部

協力: 学校法人シュタイナー学園

問合せ: 那須みふじ幼稚園 高橋宛

Tel. 0287-62-1350 / mail. takahashi@nasu-mifuji.ed.jp